

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	工学研究科建築学専攻
学年(出発時)	博士前期課程1年
大学名	バレンシア州立工芸大学
国	スペイン
留学期間	2013年 9月 4日 ~ 2014年 7月 5日
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
8:00	
9:00	起床・朝食
10:00	
11:00	
12:00	図書館
13:00	図書館
14:00	
15:00	昼食
16:00	
17:00	
18:00	授業
19:00	授業
20:00	授業
21:00	授業
22:00	帰宅
23:00	
0:00	就寝

研究内容	
研究課題	サンティアゴ・カラトラバの建築設計手法に関する研究
<p>スペイン人建築家、サンティアゴ・カラトラバ氏は人体や動物、植物の分析・スケッチからインスピレーションを受け自らの設計に取り込みその建築形態へと表現している。氏の創造する造形は繊細で力強く、綿密に計算された力学によって実現されている。本研究では氏のスケッチから、いかにして建築を構成する要素へと昇華し、建築全体へと統合されているのか、その設計手法と過程を明らかにしていく。</p>	
大学のサポート	
チューターの有無	有り
チューターのサポート内容	履修・大学生活のサポート
語学コースの有無	有り(大学内カリキュラム)
コース名、料金、期間等	Esoañol I General(A) code;3329, free, 2013年10月～2014年1月

生活	
住居のタイプ	アパート(賃貸)
住居の名前	—
部屋タイプ	3LDK
ルームメイト(国籍)	無し
室内設備	IH調理器、オーブン、冷蔵庫、洗濯機、洗面台、浴室、トイレ、給湯器、ベッド、ソファ、テーブル、クローゼット
共用施設	郵便ポスト、エレベーター、インターホン、
インターネット設備	無し
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	バス10分、自転車20分
アルバイトの有無	無し
アルバイトの内容	—

渡航	
Visaの種類	長期留学査証
Visa申請先	スペイン大使館領事部 〒106-0032 東京都港区六本木1-3-29
Visa取得にかかった日数	46日(2013年7月16日申請—2013年8月30日発行)
Visa取得にかかった費用	交通費(三重—東京往復2回)、郵送費
Visa取得方法、提出書類等	<p>提出書類を揃えた後、スペイン大使館(東京)へ本人出頭。詳細は大使館へ要確認。スペイン入国後3ヶ月以内に滞在都市管轄の警察署にて学生査証の申請。 【必要書類・条件等】※大使館からの資料より抜粋</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 査証申請書。 2. 本人出頭(2回):申請者本人は、必ず当大使館に出頭の上、申請・受領して下さい。(郵送申請・受領は不可)。 3. 写真(4.5x3.5)1枚。(カラー写真で、背景が白色) 4. パスポートとコピー1部。 5. 外国人の場合、日本での長期の居住許可と再入国許可を保有していること。(残存期間はスペインへの入国日より最低4ヶ月以上有効のもの)コピーを各1部提出。 6. 入学許可書:原本とコピー1部。 7. 無犯罪証明書:発行日より3ヶ月以内のもの(18歳未満の場合は不要) 8. 経済能力を証明するものとして、日本からの往復の経費と月額535ユーロ相当額以上(宿泊費も含まれる)のスペインでの滞在費を支弁する能力を証するものとして下記のうちいづれか1つを選択: <ol style="list-style-type: none"> a) 残高証明書。(原本のみ) b) 雇用されている会社から勉強の為に派遣される場合、渡航目的、期間、学校名、その所在地、往復の費用・生活費等を会社が保証することを明記した保証書でも可。(原本のみ) c) 給費・奨学金の証明書。(原本とコピー1部) 9. 宿泊証明。(原本とコピー1部)。学校が斡旋する場合は学校の宿泊証明書でも可。宿泊先の住所も明記すること。(項目6の入学証明書と1枚にまとめても結構です)。賃貸契約を結ぶ場合は、そのコピー1部。家族・友人等の宿泊先の場合は、次の項目11.の公正証書でカバーできます。 10. 海外旅行保険。(英文あるいはスペイン文)。希望滞在期間をカバーしていること。保険会社の押印なきものは無効。(クレジットカードに含まれているものは不可)。原本とコピー1部。 11. 宿泊証明としてスペイン人からの招聘状を提出する場合、9番について保証し、責任を負うと表明した公正証書にして提出して下さい。原本とコピー1部。(スペイン現地の公証人・NOTARIO・に依頼)(必要な場合のみ) 12. 健康診断書。原本とコピー1部。大使館作成の雛型に基づいて、医師が記入、署名し、医師及び病院印(別々の印)が捺印された最新のもの。(発行日より1ヶ月以内のもの)(指定病院はありません) 13. 返信用定形封筒[宛先、郵便番号、宛名を記入し、80円切手を貼ったもの]。スペイン本国外務省より査証の回答が出次第、速やかに正式な結果通知をお送りいたします。 14. 手数料:7,487円(日本国籍の場合は無料) 15. 必要日数:約2ヶ月。学生査証は、スペイン外務省の許可が必要になります。許可がなければ査証の発給はできませんので、時間の余裕をもって、だいたい出発の約3ヶ月前に申請するようにお勧め致します。

留学先大学の最寄り空港までの経路	関西国際空港→ドバイ国際空港(乗継)→バルセロナ空港 ※エミレーツ航空利用
渡航費用	行き:11,3300円、帰り:63,570円 (往復合計176,870円)
ピックアップサービスの有無	有り(利用せず)

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	有り
有る場合、その理由	就職活動のため
就職活動開始時期	2014年12月
帰国後の進路	三重大学大学院工学研究科(継続)

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	1ユーロ＝約140円(138円～143円)
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	150,770円
学費(教科書代や語学コース授業料等)	
宿舍費(月額)	270ユーロ
光熱費(月額)	30ユーロ
食費(月額)	200ユーロ
その他	
留学期間中にかかった費用の合計	約100万円

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

私の留学期間はたった10ヶ月でしたが、UPVでのキャンパス生活、日常生活共にとても楽しく満足のいくものでした。

やはり語学の壁は大きく特にスペイン語での講義の理解には大変苦労しました。あらかじめ語学の準備を十分にしておけばより充実したものになったかと思うと悔やみきれません。幸いUPVによる語学コースを履修することができたのでとても実践的に基礎から語学を学ぶことが出来ました。私が履修したコースでは授業中は原則スペイン語だけという方針で行われ基礎的なことを習得するまで苦労しましたが、上達は早かったと思います。2ヶ月ほどで生活する上で最低限の語学は習得出来たのではないかと思います。やはりスペイン人学生との交流がもっとも学習効果が高かったのは言うまでもありません。これも幸い日本への留学経験のある学生や興味から日本語を学んでいる学生らと交流することができ、互いの言語を交えながら生活や文化について多くのことを吸収することが出来ました。これこそ長年の交換留学制度の恩恵であったと感じます。

語学や生活に慣れてくるとバレンシアはとても住みやすく、快適な生活を送ることができました。典型的な地中海性気候で夏の日射しは強いですが降水量は少なく乾燥しているため過ごしやすく、冬もさほど気温は下がりません。夏は日が長く毎日夜遅くまで街はにぎわっていました。食事も皆美味しく、昨今の日本食ブームもあり日本食レストランや日本の食材が容易に手に入るので食事に関するストレスは有りませんでした。ただし、水質が大きく異なるためその点は気をつけていました。

留学先のバレンシア州立工芸大学は、学生数3.6万人と三重大学の数倍あるとても大きな大学です。大学設備も十分に整っており、図書館の蔵書も多くとても満足のいくものでした。特に留学生が多いため留学生に対するサポートが手厚く、滞在中のビザ申請の際もしっかり補助をして頂き、事務手続きでも丁寧に対応して頂きました。事務職員の語学レベルも高く英語でのコミュニケーションも容易でした。学生や授業のレベルも高い印象を受け良い刺激となりました。このような場所で学ぶ機会が得られたことはとても幸運なことで、サポートして下さった教職員や友人、家族に感謝いたします。

今後留学する人へのアドバイス

留学はとてもハードルの高いものであるという印象が有るかもしれませんが。語学や査証などの準備は確かに大変ですが、いざ留学先へ行ってしまうと何とかできます。何も分からない土地で一から生活を始める楽しみも大いに感じる事が出来るでしょう。慣れてしまうと帰国したくなくなるかもしれません。まず挑戦してみてください。留学するタイミングはいつでもいいかと思いますが、私は早いに越したことはないと思います。もちろん日本のことを良く学び知っておいて下さい。残念なことに日本からの留学生の多くは日本の文化や政治をうまく説明出来ないのではないかと感じます。多くのことに興味を持ち広く知識を得て下さい。必ず留學生活の密度が濃くなるでしょう。

最後に携帯電話について。日本では携帯電話の普及、特にスマートフォンの所持率が高くなって来ています。これはもちろん海外でも同じで学生のほとんどがスマートフォンを所持しています。彼らは皆SNSを利用してコミュニケーションをとっています。もちろん直接会い交流することに勝ることは有りませんが、直接会うにもSNSを利用しています。私も留學中SNSを頻繁に利用していましたがとても便利で助かりました。これから留學を考えている人には海外で使用(現地の電波を受信)出来るスマートフォンの準備を強く勧めます。

報告書記入日

2014年7月18日